

- 働き手一人ひとりが、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになることをねらい、全てのビジネスパーソン共通に求められる学びの指針を「DXリテラシー標準」として取りまとめた（3月末公開予定）
- デジタル人材育成プラットフォーム(ポータルサイト)では、民間や大学等が提供する様々な学習コンテンツや講座についてDXリテラシー標準を統一基準として紐付ける形で整理し提供する方針。

開催実績

- 第1回（令和3年12月）
 - ✓ デジタルリテラシー協議会による検討状況共有
 - ✓ デジタルスキル標準（リテラシー）に関する討議
- 第2回（令和4年1月）
 - ✓ 第1回検討会の振り返り
 - ✓ デジタルスキル標準（リテラシー）原案の内容に関する討議
- 第3回（令和4年2月）
 - ✓ 第2回検討会の振り返り
 - ✓ DXリテラシー標準原案の内容に関する討議
- 第4回（令和4年3月）
 - ✓ DXリテラシー公開に向けたスケジュールに関する説明
 - ✓ 第3回検討会の振り返り
 - ✓ DXリテラシー標準に関する討議

委員名簿

＜座長＞

石戸 奈々子 慶應義塾大学 メディアデザイン研究科 教授

＜委員＞ 50音順

折茂 美保 ポストン・コンサルティング・グループ合同会社
マネージング・ディレクター & パートナー

草野 隆史 株式会社ブレインパッド 代表取締役社長

孝忠 大輔 日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部事業部長代理

河野 浩二 独立行政法人情報処理推進機構 社会基盤センター 専門委員

高橋 佐知子 一般社団法人日本ディープラーニング協会 人材育成統括

高橋 範光 株式会社デジタルグロースアカデミア 代表取締役社長

竹川 隆司 株式会社zero to one 代表取締役CEO

DXリテラシー標準α版

■ DXとは

DXの定義*

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

ポイント

データとデジタル技術を活用して

… デジタルツールの導入 = DXではなく、データやデジタル技術はあくまで変革のための手段

製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し

… デジタルを使った製品やサービスを提供するだけでなく、データやデジタル技術を活用して社内プロセスの改善や、デジタルを活用しやすい組織づくりに取り組むことが重要

ビジネス環境の激しい変化に対応し／競争上の優位性を確立する

… 環境変化の中でも、企業が市場で淘汰されずに、成長し続けることが目的

DXリテラシー標準α版

■DXリテラシー標準のねらい

- 社会環境・ビジネス環境の変化に対応するために、企業・組織を中心に社会全体のDXが加速する中で、人生100年時代を生き抜くためには、働き手一人ひとりが状況に合わせて学び続けることが重要となる
- 「DXリテラシー標準」は、働き手一人ひとりが、自身の日常生活や仕事の場でこのような取り組みの成果を享受し、また取り組みに参画することを支援する学びの指針としたい

DXリテラシー標準 のねらい

「DXリテラシー」を身に付けることで、
働き手一人ひとりが、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

DXリテラシー標準 を身に付けた 人材イメージ



わが社におけるDXの方向性が見えてきた



なぜ会社がDXを重要視しているのかが
わかってきた



私の業務も、この技術を活用して
効率化／改善できそう



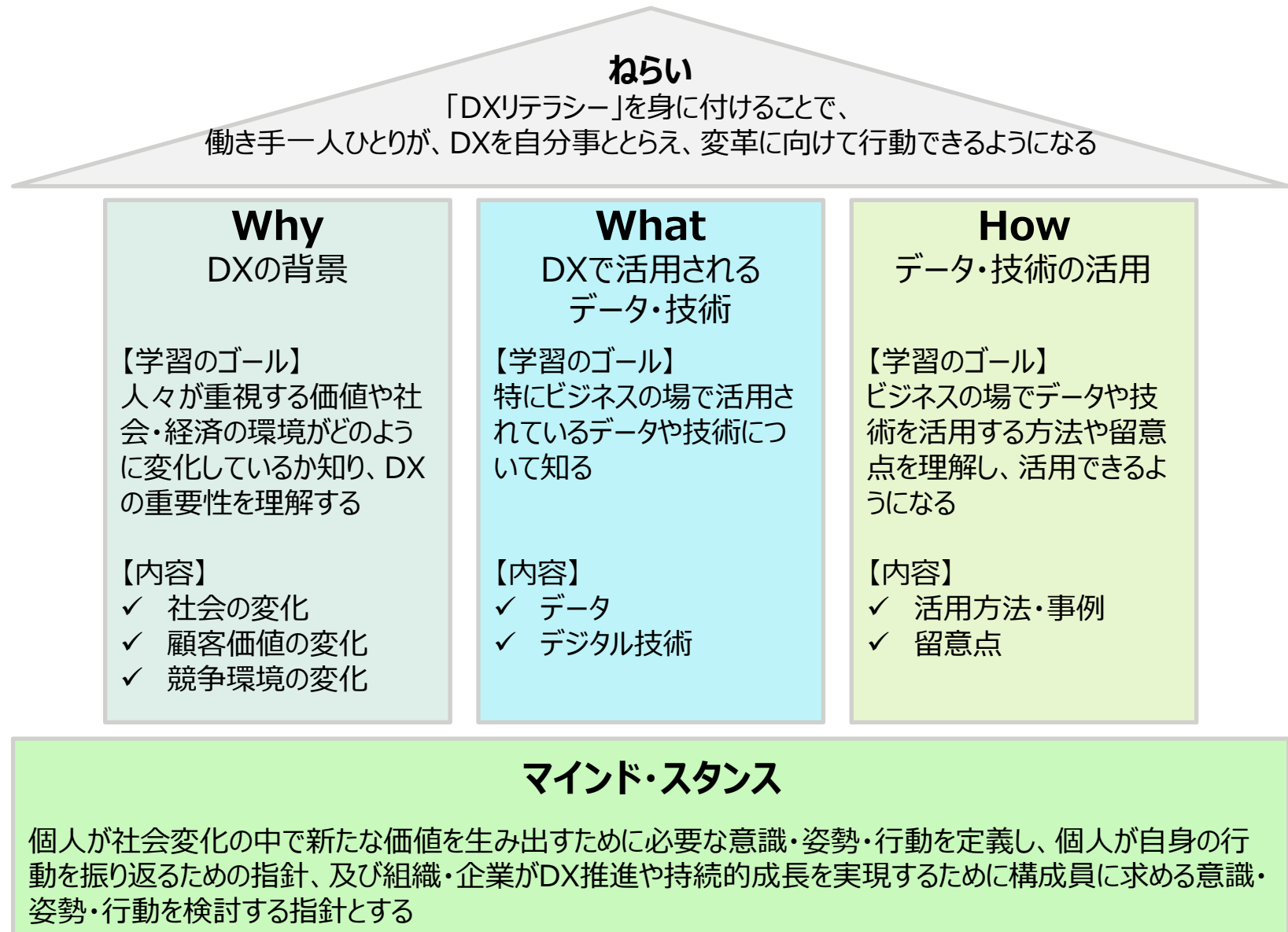
私の業務知識と新しく身に付けたDXリ
テラシーを掛け合わせて、何か新しいこと
にチャレンジできそう



大学時代に学んだデジタルスキルに
業務や顧客の理解を掛け合わせると
社会でも活躍できそう

DXリテラシー標準α版

■ 枠組み



DXリテラシー標準α版

■項目一覧

ねらい

「DXリテラシー」を身に付けることで、働き手一人ひとりが、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

Why

DXの背景

社会の変化

顧客価値の変化

競争環境の変化

What

DXで活用されるデータ・技術

データ

社会におけるデータ

データを読む／説明する

データを扱う

データで判断する

デジタル技術

AI

クラウド

ハード・ソフト

ネットワーク

How

データ・技術の活用

活用方法・事例

デジタルツールの活用方法

データ/デジタル技術の活用事例

留意点

セキュリティ

モラル

コンプライアンス

マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

顧客・ユーザーへの共感

常識にとらわれない発想

反復的なアプローチ

デザイン思考・アジャイルの
前提となるマインド・スタンス

変化への適応

コラボレーション

柔軟な意思決定

事実に基づく判断

DXリテラシー標準α版

■マインド・スタンス

学習のゴール：社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要なマインド・スタンスを知り、自身の行動を振り返ることができる

中項目	中項目の内容	学習項目例
変化への適応	✓ 環境や仕事・働き方の変化を受け入れ、適応するために自ら主体的に学ぶ ✓ 過去に学んだ知識・スキルが古くなっていないか振り返り、古いものを捨て新しいものを学ぶ	✓ 中項目の内容に関する具体的な行動例やそのような行動による良い影響の例 等
コラボレーション	✓ 様々な専門性を持った人と社内・社外問わずに協働することが当たり前になることを理解し、多様性を尊重する	
顧客・ユーザーへの共感	✓ 顧客・ユーザーに寄り添い、顧客・ユーザー自身が認識できていないものも含めたニーズや課題を発見する	
常識にとらわれない発想	✓ 顧客・ユーザーのニーズや課題に対応するためのアイデアを、従来のやり方にとらわれずに考える ✓ 従来の物事の進め方や理由を自ら問い、より良いほかの進め方がないか考える	
反復的なアプローチ	✓ 新しい取り組みや改善を、失敗を許容できる範囲の小さいサイクルで行い、顧客・ユーザーのフィードバックを得て反復的に改善する ✓ 失敗したとしてもその都度軌道修正し、学びを得ることができれば「成果」とであると認識する	
柔軟な意思決定	✓ 前例をベースにした予測ができない状況においても、最低限守るべきルールを順守できていれば、従来の常識にとらわれずに意思決定を行う	
事実に基づく判断	✓ 勘や経験ではなく、最新の事実やデータに基づいて、物事を見たり、判断する	

■ Why

学習のゴール：人々が重視する価値や社会・経済の環境がどのように変化しているか知り、DXの重要性を理解する

中項目	中項目の内容	学習項目例
社会の変化	✓ 世界や日本社会におきている変化や、日本と外国の取り組み状況の差を知る ✓ 変化の中で人々の暮らしをよりよくし、社会課題を解決するためにデータやデジタル技術の活用が有用であることを知る	✓ 現在認識されているメガトレンド・社会課題（SDGsなど） ✓ 第4次産業革命・Society5.0・データ駆動型社会等
顧客価値の変化	✓ 消費者・顧客がデジタル技術の発展によりどのように変わってきたか（情報やモノ・サービスへのアクセスの多様化、人それぞれのニーズを満たすことへの欲求の高まり）を知る	✓ 消費者行動の変化 ✓ 消費者・顧客を取り巻くデジタルサービス 等
競争環境の変化	✓ データ・デジタル技術の進展や、社会・顧客の変化によって、従来の業種の垣根を超えたビジネスが広がっていることを知る	✓ デジタル技術の活用による競争環境変化の具体的事例 等

■ What (1/2)

学習のゴール：特にビジネスの場で活用されているデータや技術について知る

中項目	中項目の内容	学習項目例
データ 社会におけるデータ	✓ 「データ」には数字だけでなく、文字・画像・音声等様々な種類があることを理解し、それらがどのように蓄積され、社会で活用されているか理解する	✓ データの種類 ✓ 社会におけるデータ活用 等
データ データを読む／説明する	✓ データの分析手法や結果の読み取り方を理解する ✓ データの分析結果の意味合いを見抜き、分析の目的や受け取り手に応じて、適切に説明する方法を理解する	✓ データの比較方法 ✓ データの可視化 等
データ データを扱う	✓ データ分析においては、正しいデータの抽出、データの整形・集計が重要であることを理解する	✓ データの抽出・集計 ✓ 標準化・正規化 ✓ データの並び替え 等
データ データによって判断する	✓ 業務・事業の構造、分析の目的を理解し、データを分析・活用するためのアプローチを設計する方法を知る ✓ 期待していた結果とは異なる分析結果が出た場合、それは新たな発見であることを理解する ✓ 分析の結果から、経営や業務に対する改善のアクションを見出し、アクションの結果どうなったかモニタリングする手法を理解する	✓ データドリブンな判断プロセス ✓ 分析アプローチ設計 ✓ モニタリングの手法 等

■ What (2/2)

学習のゴール：特にビジネスの場で活用されているデータや技術について知る

中項目	中項目の内容	学習項目例
デジタル技術 AI	✓ AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を理解する ✓ AIを使う上で理解する必要があることを知る（学習するためにはデータが必要であること、AIが万能ではないこと、AIを悪用してはならないことなど） ✓ AIの判断の精度を高めるためには、使用する側からのフィードバックが必要であることを知る	✓ AIの歴史・他の情報技術との違い ✓ AIを作るために必要な手法・技術 ✓ 人間中心のAI社会原則 ✓ AIの得意分野・限界 ✓ AIツール体験 等
デジタル技術 クラウド	✓ クラウドの仕組みやクラウド技術によるサービスの提供形態を知る	✓ クラウドの仕組み（データの持ち方、データを守る仕組み） ✓ クラウドサービスの提供形態（Saas、IaaS、Paas、Daas） 等
デジタル技術 ハード・ソフト	✓ コンピュータやスマートフォンなどのデジタル機器が動いている仕組みや、社内システムなどがどのように作られているか知る	✓ ハードウェア（ハードウェアの構成要素、コンピューターの種類） ✓ ソフトウェア（ソフトウェアの種類、プログラミング的思考） ✓ 企業における開発・運用 等
デジタル技術 ネットワーク	✓ ネットワークの基礎的な仕組みを知る ✓ インターネットの仕組みと代表的なインターネットサービスを知る	✓ ネットワーク・インターネットの仕組み（LAN/WAN、通信プロトコル） ✓ インターネットサービス（電子メール） 等

DXリテラシー標準α版

■ How

学習のゴール：ビジネスの場でデータ・デジタル技術を活用する方法や留意点を理解し、活用できるようになる

中項目	中項目の内容	学習項目例
活用方法・事例 ツール活用	✓ 企業・組織において使用されるITツール、サービスを使いこなす力を身に付ける	✓ メール・チャット・表計算ソフト・BIツールなどの操作・活用方法 等
活用方法・事例 データ/デジタル技術の活用事例	✓ ビジネスにおけるデータ・デジタル技術の活用事例を知ること、データ・デジタル技術が様々な業務で活用できることを理解し、自身の業務への適用場面を想像することができる	✓ 事業活動におけるデータ・デジタル技術の活用事例（ビジネス変革・業務のデジタル化・ペーパーレス化などを含む） 等
留意点 セキュリティ	✓ セキュリティ技術の仕組みと個人がとるべき対策を知ること、安心してデータやデジタル技術を活用することができる	✓ セキュリティの3要素 ✓ セキュリティ技術 ✓ 個人がとるべきセキュリティ対策 等
留意点 コンプライアンス	✓ プライバシー、知的財産権、著作権の示すものや、その保護のための法律、諸外国におけるデータ規制等について知ること、実際の業務でデータや技術を活用するときに、自身の業務が法規制に照らして問題ないか確認することができる	✓ 個人情報の定義と個人情報に関する法律・留意事項 ✓ 著作権・産業財産権・その他の権利が保護する対象 ✓ GDPR・CCPAなどの内容 等
留意点 モラル	✓ 個人がインターネット上で自由に情報のやり取りができる時代において求められるモラルを知り、インターネット上での適切な活動やコミュニケーションができる ✓ 捏造、改ざん、盗用などのデータ分析過程における禁止事項、データを説明する上でのモラル（恣意的に一部を取り出さないなど）を知ること、適切にデータを活用することができる	✓ ネット被害・SNS等のトラブルの事例・対策 ✓ データ活用の留意事項 等